

ダビの白輪 ネビの紅輪

マサ

今から8年前の春、私はパナマの地方都市ダビ南方(ペドレガル)において、金環皆既日食を「金環側」からみた。それはリング状態になっているのが、たった1秒足らずのスリリングな金環食であったが、上空にかかっていた薄雲のせい(おかげ?)で、望遠鏡ノーフィルターで、白い極細リングを堪能できた。

そして8年後の今回、ウガンダの地方都市ネビ東方(アカンヨ)において、金環皆既日食を「皆既側」からみることが出来た。それは全周彩層(&プロミネンス)のピンク(紅)の極細リングで、まさに「鳥肌もの」の夢のような幻のような綺麗なリングであった。

いままで世界各地の様々な場所で、皆既日食、金環日食をみてきた。しかしハイブリッドな金環皆既日食となると、その頻度もぐっと低くなり、また金環側からみればソリッドな極細金環、皆既側からみればスリリングな短時間皆既と、同じタイミングの日食でも、見る場所によって見栄えは全く違うものとなる。

今回のウガンダでの金環皆既日食は、このときまだみていなかった皆既側からの金環皆既日食に初チャレンジとなったのだ。

皆既時間が長い皆既日食は、もちろん真っ暗で神秘的な状況が長く続き、その間、外部コロナの詳細な模様(ストリーマー等)がみられ、また、地平線の周囲は全周夕焼け状態となり、明るい星々も見えて、それはそれでとても魅力的なものである。

しかし、食の最大前後では、太陽エッジ周辺のピンクの彩層、縁辺外枠にダイナミックに出る真っ赤なプロミネンスは、月本体に隠れ、全く見えなくなる(まあその反面、とても雄大な白い衣のような外部コロナはみられるのだが)。これら彩層、プロミネンスは、第二、第三接触が近づくころに太陽が潜入(出現)する付近に「部分的」に現れる。

私はいつの頃からか、ピンクの彩層、真っ赤なプロミネンスが、もっと広範囲(できれば全周)でみられる皆既日食がとてもみたくなっていた。

しかしこれはもちろん、皆既時間が短くなる「痛し痒し」の問題でもあった。それでも、皆既時間は短くても良いから、とても綺麗な「ピンク(紅)リング」がみられるのであれば、是非、どんな世界の秘境でも馳せ参じたいと思っていた。

そして今回、この金環皆既日食を皆既側からみるチャンスがやってきた。こうなると、治安、天候、伝染病など様々なリスクがあっても、その場所へ行きたくなる。どんなにリスクがあっても、「その場所へ行かなければ、みる事が出来ない」のであるから。

伝染病対策として、黄熱病を予防するワクチン注射を打ち、マラリアを予防する副作用の強いメフロキンという薬を毎週1回飲む覚悟を決め、ふらふらな満身創痕状態になりながらも、アフリカに行こうと決めたのである。

私は当初、晴天率、皆既のギリギリ度から、阪急交通社のエチオピアツアーに参加する予定であった。以前和歌山大学で、はやぶさ帰還直前に聴講したO教授も同行されるツアーで、とても期待していた。もう申込書も旅行社に発送直前で、申込金の入金も直前であった。

このタイミングに、勤務の関係でもう少し早く帰国しなくてはならない状況と、満席といわれていた道祖神のウガンダツアーで1名のコース変更が生じ、「1席空きが出たのでどうですか？」との電話連絡が担当者から入った。こちらには、Oさん、Sさんをはじめ知り合いの方々も多数参加されることも分かっていた。

まるで運命のパズルがカチっとはまるように、私はウガンダ行きに切り替えた。

今回の皆既日食は、過去十数回の私が見てきた中で、一番の綺麗であった。

さすがに皆既時間が短くて、眼の瞳孔が開く間もなく、外部コロナはさっぱりであったが、その分、期待していたピンクの「全周」彩層、真っ赤な「全周」プロミネンスが見られ、これは夢のような幻の様なとても綺麗な皆既日食であった。

この際、継続時間、詳細な外部コロナ状況が犠牲になっても、この瞬間に全体「ピンクの環」状態の素晴らしい光景がみられたことの方が、私にとっては嬉しかった。

更におまけとして(いやおまけ以上か)、ダイヤモンドリングも第二接触時がダブルダイヤモンド状態で、第三接触時が下方部分の1/4がベルト状のベイリービーズ状態で見られ、とても感動致した。

写真上)

今回(2013年)のネビ金環皆既日食(ダブルダイヤモンドリング(第二接触時))

写真下)

前回(2005年)のダビ金環皆既日食
(撮影は一緒に参加した佐山敬悦氏)



当日の天気状況をいえば、晴れ間の中に厚い雲が移動している状況で、運が悪ければ皆既中に雨に打たれてみられなかった可能性もおおいにあった(現に皆既10分前から2分前まで雨)。ネビの同じホテルに宿泊した欧米からの観測者は向かった観測場所が雨や曇りで見られなかったと聞く。その意味では、まさに紙一重であった(これは奇しくも8年前のパナマも同じ状況で、場所によっては同じ地区でも見られなかった所もあった)。

この2つの金環皆既日食。どちらもハラハラしながらも、なんとか綺麗に見られたことを、太陽神に感謝したい。(了)